

学区との絆を深め、豊かに表現できる子どもの育成 ～地域との交流や地域の教育力を生かした活動を通して～

幸田町立深溝小学校

1 実践のねらい

- (1) 学区民やPTA、学区コミュニティなど、子どもたちを取り巻く地域の教育力を生かし、それらの方々と関わりながら、地域に根ざした学校づくりを進めていくとともに豊かに表現できる子どもの育成に努める。
- (2) 地域の人々と児童・保護者が交流する場を設定することで、地域の人々との絆を深め、郷土を愛する心を育てる。

2 実践の内容

(1) 地域と共に行事をつくる取組

ア 学区コミュニティ大運動会

本校の運動会は、学区コミュニティの主催となっている。児童が中心となるように計画、準備、運営に至るまで、地域の区長らが大きく関わっている。4地区対抗の種目や幼児や大人も楽しめる種目も用意され、学校と地域でつくられるすばらしい運動会となっている。運動会のフィナーレは児童、保護者、地域の方々による「深溝音頭」で締めくくった。



深溝音頭を踊る学区のみなさんと児童

イ ホタルを観る会

学区コミュニティと町のライフサークル、学校が協力して行っている。学区には、ホタルがたくさん生息する拾石川が流れており、河川環境美化を理解してもらうためにと10年以上前から始まった行事である。「拾石川の環境を守る会」が、河川環境美化に長い間努めてきたが数年前よりその活動を終了した。本年度は、本校のビオトープ委員会が、日ごろの環境学習の成果をこのホタルを観る会の「ホタル観賞のマナー説明」で初めて発表した。地域の方々にもよくわかるようにと創意工夫して発表内容を考え、ユーモアあふれる楽しい演技で地域の人々を楽しませた。



地域の皆さんの前で発表する児童

ウ 親子ふれ合いポンツク大会

学区コミュニティとPTA、学校の3つで、夏休みに入ってから「親子ポンツク大会」を実施した。親子の触れ合いとともに地域の方々とも交わりながら、拾石川に放流した鮎を捕まえるという活動である。河川敷の草刈りや囲いの準備で学区コミュニティやPTA役員の方々など多くの力を借りて実施する行事である。毎年、魚が一匹も取れずに悲しんでいる児童がいたが、本年度は、高学年の児童が取れない子に取ってあげるといふ優しい行動も見られた。例年以上の参加者と賑わいを見せた。多くの人々が関わり、学区コミュニティに支えられている本地区なら



鮎をつかんで地域の人に認められる

ではの行事と言える。

(2) 地域の農家の助けを得たナス栽培

ア 5年生による郷土を愛する心を育てるナス栽培

本校では毎年5年生が幸田町の特産物であるナスの栽培を行っている。7年前より、学区でナスを栽培している方々が5年生の栽培学習に協力して下さることになり、本格的なナス栽培を直に教えていただけるようになった。害虫の駆除、暴風に対する対処等ナスが順調に育成し、たくさんの収穫があるように全面的に協力していただけている。地域の教育力により、幸田町や深溝に対する愛着や関心が児童たちに高まっている。



ナス栽培の説明を聞く5年生児童

イ 生き生きサロンのお年寄りから漬物作り

特別支援学級では、地域のお年寄りから教えていただきながら、学級園で栽培した大根を漬物にする。かなり手間のかかる作業だが、特別支援学級児童全員と担任、地域のお年寄りとで力を合わせて多量の大根を塩漬けにすることができ、児童たちに貴重な体験をさせることができた。

(3) 異世代交流会議で防災を考える取組

ア PTA親子防災ウォークラリー

昨年度より始まった親子ふれあいウォークラリーを、本年度は本校が重視する防災教育と絡めて実施した。昭和20年の三河地震でできた「深溝断層」をウォークラリーのコースに入れ、地域についてより詳しく知るとともに防災に対する意識を高めることができた。



学区にある深溝断層を歩く親子

イ 深溝学区の防災を考える異世代交流会議

小学生から60代までの異世代が集まり、深溝学区の防災を考える異世代交流会議を行った。「あそこの崖の木が落ちてきそう」という意見が児童から多く出され、他の世代をうなずかせた。みんなが防災を意識して絆が深まれば、もしも被災したときは多くの命が助かるという意見や自分たちが毎日生活する近所から見つめ直し、防災意識を高めていこうという意見も出された。学区内の危険箇所、避難場所、避難所、避難経路等もしっかりと確認でき、異世代で話し合った成果は大きかった。



安全な町づくりについて考える交流会議

3 実践の成果や課題

(1) 成果

もともと3世代家族が多く、学校と地域との結びつきが強い学区であったが、今年度の様々な取組で、学校と学区との絆をさらに深めることができた。児童が以前にも増して地域のことを知り、地域のことを考え、地域の人々のために動こうとするようになったことは、将来この地を担う子どもたちにとって、大きな一歩と考える。今回の取組で、地域防災に関心をもつ子が増えた。

(2) 課題

本年度、学区コミュニティやPTA、幸田町などの要請もあり多くの行事や会議を計画実施して学区との絆を深めてきたが、これを長期間継続していくことが必要であると考える。